【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成23年9月8日(2011.9.8)

【公表番号】特表2010-534663(P2010-534663A)
【公表日】平成22年11月11日(2010.11.11)
【年通号数】公開・登録公報2010-045
【出願番号】特願2010-518299(P2010-518299)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｃ　27/00　(2006.01)
Ｂ０１Ｊ　23/80　(2006.01)
Ｂ０１Ｊ　23/86　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　31/125　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　29/145　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　49/04　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　45/73　(2006.01)
Ｃ０７Ｂ　61/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｃ　27/00
Ｂ０１Ｊ　23/80　Ｚ
Ｂ０１Ｊ　23/86　Ｚ
Ｃ０７Ｃ　31/125
Ｃ０７Ｃ　29/145
Ｃ０７Ｃ　49/04　Ｅ
Ｃ０７Ｃ　45/73
Ｃ０７Ｂ　61/00　３００

【誤訳訂正書】
【提出日】平成23年7月15日(2011.7.15)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００２】
技術分野
本発明は、溶媒の生成方法に関する。一態様では、本発明は、メチルイソブチルカルビノール（ＭＩＢＣ）、およびイソブチルヘプチルケトン（ＩＢＨＫ）とトリメチルノナノール（ＴＭＮ）との混合物を生成するための方法に関し、別の態様では、本発明は、銅系触媒を用いたこれらの溶媒の製造方法に関する。さらに別の態様では、本発明は、単独のＭＩＢＣ、またはＩＢＨＫとＴＭＮとの混合物と組み合わせたＭＩＢＣの製造方法に関する。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
イソブチルヘプチルケトンおよびトリメチルノナノール生成物に比べてメチルイソブチ

ルカルビノール生成物の量を増加させる方法であって、前記生成物がどちらも反応温度を含む縮合／水素化／脱水反応条件下でメチルイソブチルケトンを水素およびＣｕ系縮合／水素化／脱水触媒と接触させることで得られる生成物であり、該方法は２００℃未満の反応温度を用いる工程を含み、前記増加は触媒がＣｕ系触媒でなくＮｉ系である点を除いて前記方法と同一の方法に対して測定されたものである、方法。

【請求項２】

前記反応温度が９０～１５０℃である、請求項１に記載の方法。

【請求項３】

前記触媒が二元機能Ｃｕ系アルドール縮合触媒である、請求項２に記載の方法。

【請求項４】

メチルイソブチルカルビノール生成物に比べてイソブチルヘプチルケトンおよびトリメチルノナノール生成物の量を増加させる方法であって、前記生成物がどちらも反応温度を含む縮合／水素化／脱水反応条件下でメチルイソブチルケトンを水素およびＣｕ系縮合／水素化／脱水触媒と接触させることで得られる生成物であり、該方法は２００℃以上の反応温度を用いる工程を含み、前記増加は触媒がＣｕ系触媒でなくＮｉ系である点を除いて前記方法と同一の方法に対して測定されたものである、方法。

【請求項５】

前記反応温度が２００～２４０℃である、請求項４に記載の方法。